

令和5年8月4日

ALIC/USMEF定期情報交換会議の概要について

独立行政法人農畜産業振興機構

このたび、独立行政法人農畜産業振興機構（ALIC）は、米国食肉輸出連合会（USMEF）と定期情報交換会議を開催しました。

本会議は、日本と米国の食肉の需給状況等について意見交換を行う場として原則として毎年度、交互に開催しており、今回で通算35回目の開催となりました。

記

1 日時：令和5年7月28日（木）午前9時00分～12時00分

2 場所：米国・デンバー

3 参加者

ALIC

天羽 隆（理事長）、本田 光広（総括理事）ほか

USMEF

ダン・ホルストロム（会長）、ジョン・ヒナーズ（首席副会長）ほか

4 会議内容

ホルストロム会長と天羽理事長の挨拶の後、双方から米国及び日本の食肉需給について説明し、意見交換を行った。

<USMEFからの米国の食肉需給についての説明概要>

【牛肉関連】

- ・ 2022年の干ばつにより牛のと畜が進んだことで、現在の供給はひっ迫している。肥育素牛、肥育牛価格が上昇していることで、繁殖農家、育成農家、肥育農家の収益性は良好なものとなっており、今後牛群再構築が進むとみられる。

- ・ 繁殖雌牛（肉用牛）頭数は、23年は前年比3.6%減の2890万頭、24年は同1.1%減の2860万頭と減少の見込みだが、25年以降は増加に転じ、26年には2940万頭まで増加すると見込まれる。
- ・ 牛肉生産量の減少に伴い、23年の輸出量（内臓肉含む）は前年比4%減の140万トンと減少が見込まれる。ラウンド（モモ）やショルダー・クロッド（ウデ）などこれまで価値が見出されず需要の低かった部位をPR・活用していくことで、供給減に対応していきたい。
- ・ 牛の飼養コストについては、飼料コスト高に加え、飼料以外のコストが2022年12月の1頭当たり217.55ドルから、23年6月には267.50ドルと23%上昇した。これは労働費及び資材価格の上昇や金利の引き上げなどによるものであるが、今後も注視すべきと考えている。

【豚肉関連】

- ・ 2023年6月1日時点での豚総飼養頭数は前年同月を0.1%上回る7240万頭となった。また、23年3～5月における1腹当たりの生産頭数が11.36頭と過去最高を記録するなど、生産性が向上している。
- ・ 豚の飼養コストについては、飼料コスト高に加え、牛と同様に飼料以外のコストも増加しており、昨年後半以降、枝肉価格が損益分岐点を下回っている。そのため、農場を閉鎖する等の事例もあり、飼養頭数が減少することが見込まれる。

なお、ALICからは、日本の牛肉及び豚肉の直近の需給動向等について説明を行った。

問い合わせ先

調査情報部 伊藤、前田

電話 03-3583-9805